

R6 ティーaching・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科
学長・教授 野口 一夫

1 教育の責任

令和5年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
保育内容環境	前期	1年	演習	58名	1・2組 3・4組	
環境の指導法	前期	2年	演習	46名	1・2組 3・4組	
子ども学ゼミナール（環境）	前期	2年	演習	9名	1～4組	
保育・教職論	後期	2年	講義	65名	1～4組	
SDGsと教育・保育	後期	1年	演習	27名	1～4組	

学長として

経営方針の設計

○入学者増と補助金確保

- ・通信制高校へのアプローチ ・OCにおける個別相談の強化
- ・改革総合支援事業（補助金）タイプ1（特色ある教育の展開） タイプ3（地域社会）
- ・TJUP（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）の推進

○防災避難訓練の徹底

報告のあり方 単なる人数の報告だけから誰がいないのかの固有名詞の把握

○ヒアリングの実施・充実

専任教員 年2回 非常勤講師 年1回 事務局員 年1回

○公務員（保育士・幼稚園教諭）への挑戦 個別面接指導

○鳩山町とさいたま市（自宅）への社会的貢献

- ・鳩山町地域福祉推進プラン委員
- ・さいたまこどもエコ検定委員長
- ・さいたま市立栄小学校コミュニティスクール委員長

○鳩山町活性化への賛同・協力

人口減の鳩山町

町の人口、六月一日で一万二千八百九十一となり人口減少に歯止めがかからない状況が続いている。この町に位置する山村学園短期大学としては少しでも貢献したいと考え、次の施策を推進している。

- ① 町とともに取り組む子育て支援
つどいの広場「ぽっぽ」のさらなる充実
- ② 南比企窯跡の国史跡指定に伴う協力事業
古代焼き物体験
- ③ ゼミとして本学のカリキュラムへ取り入れ「鳩山町のステキを探そう！」カルタづくり
- ④ 鳩山町子どもの居場所づくり支援事業への協力

ゼミとして取り組んだカルタづくり



三セットを作り、コミュニティ・マルシェ等に展示し、訪れた方々に実際に手に取ったり遊んだりする予定。

南比企窯跡群で考えるSDGs

七月二十四日、古代やきもの体験として本学学生二十四名が多世代活動交流センターで町内でとれた粘土を用いて焼き物づくりを体験した。町教育委員会、文化財保護・町史担当職員やボランティアの方の説明を受けながら、マイコップづくりに取り組んだ。作った作品は十月上旬に「焼成実験見学会」を実施し、焼き上げる予定。



文化財保護・町史
担当・ボランティ
アの方々

容器台を手で回しな
がら、指で粘土を内
と外で押しながら調
整



粘土 竹べら
水糸 ろくろ



南比企窯跡の国史跡指定を契機に「子ども大学」でも取り入れ、活気を取り戻していければと思うこの頃。

2 教育の理念

2017(平成 29)年 3 月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成 30 年 4 月から施行された。

私たち大人は、乳幼児期の子どもの世界から実に多くのことがらを学ぶことが多い。様々な自然の生き物に強く関心を持つ子どもからは、四季の変化や、自然界の魅力に目を向けさせてもらっている。乳幼児の教育・保育のあり方の原点として、レイチェル・カーソンの「**センス・オブ・ワンダー**」の言葉をかみしめたいものである。

1 人ひとりの子どもにとって、環境とは、地域社会全体、あるいは地球環境という大きな環境という意味と、園や家庭、地域の身近な環境という意味もある。そういう意味では、環境には「広がり」と「重なり」があると言えるだろう。また前記の 3 つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを保育者養成校として追究していきたい。

乳幼児期の教育・保育を、保育内容「環境」として学ぶことは、「身近なところ～足元」から「世界に目を向けて～地球規模で考え」という、ロマンあふれる創造につながっていくことを期待しながら。

「センス・オブ・ワンダー」

Sense of Wonder

美しいものを美しいと感じる感覚

新しいものや未知なものにふれたときの感覚

思いやり 憐れみ 讃嘆や愛情などの さまざまな形の感情

それらがひとたびよびさまされると

人はその対象となるものについて

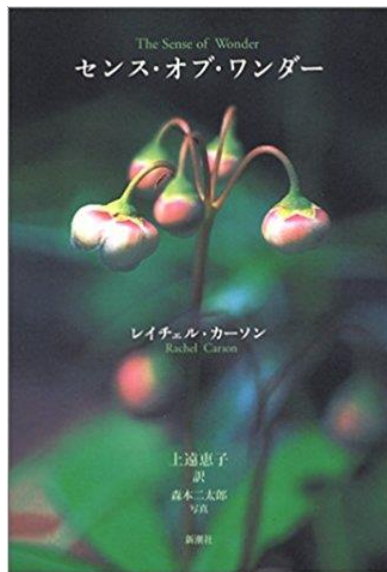
もっとよく知りたいと思うようになる

わたしたちの多くは、まわりの世界のほとんどを視覚を通して認識しています。しかし、目にはしていながらほんとうには見ていないことも多いのです。見すごしていた美しさに目をひらくひとつの方法は、自分自身に問いかけてみることです。

「もしこれが、いままでに一度も見たことがなかったものだとしたら？ もしこれを二度とふたたび見るができないとしたら？」と、

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない・・・と言い切るカーソン

レイチェル・カーソン著「センス・オブ・ワンダー」より



Natural Message



埼玉景観賞 1989年受賞
～ループルを思わせるホール入口～

「遊ぶ」と「学ぶ」

子どもは、とにかくよく遊ぶ。そして好奇心が旺盛である。いろいろなものに興味を持ち、いろいろなことをしたがる。そして、すぐに大人のマネをしようとする。じゃれあったり、兄弟姉妹でよくケンカもする。一日中、そうやって遊んで過ごす。しかし「遊ぶこと」は子どもにとって生きるための知恵を「学ぶこと」なのである。

それに比べほとんどの生物は子育てすることはない。チョウやトンボなどの昆虫は、卵を産んだら、産みっぱなし。卵から産まれた小さな幼虫は、何の保護もなく自分の力だけで生きていかねばならない。「子どもを守り育てる」ということは、強い生物だけに与えられた特権と言える。

のびのびと「遊ぶ」、時に真剣に「遊ぶ」ことを通して、子どもの感性に気づき、子どもの心とからだに寄り添える力を身につけて欲しい。子どもたちの遊び環境や、遊びの中にある仲間関係や人間関係についても、体験を通して自分のからだで理解して心で学んでいく、それを知識と結びつけ保育者としての専門性と感性を身につけていく。これが本学の「遊んで学ぶ」の目指すところである。

3 教育の方法

(1) 保育内容環境

【ねらい】

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に行い体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

（２）環境の指導法

【ねらい】

領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関り、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。

【到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

（３）保育・教職論

【ねらい】

保育士や幼稚園教諭を目指すために、保育者とは何か、今保育者に求められている資質や能力は何か、そしてその職務の内容等について、関連法規等を踏まえて検証することができる。

【到達目標】

保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）に対する意識を高め、その違いや共通点を明らかにし、さらに保育者としての専門性の高揚を図り、連携・協働の重要性を理解することができる。

（４）子ども学ゼミナールⅠ

【ねらい】

クラスやゼミナールでの活動を通して、保育の専門的知識や技能、多様な教養を学習し、現代社会を取り巻く現状を捉える力を養います。さらに、自らが職業人として必要な課題を見出し、分析や考察したことを他者へ表現する方法を学びます。そのうえで、主体性を持って多様な人々との関わる態度を養い、また他者を受容する姿勢を身に付けます。

【到達目標】

- (1)クラスやゼミナールでの活動へ主体的に取り組み、得たい知識や技能を自発的に獲得できる。
- (2)職業に対する求められる態度、マナー、コミュニケーションを理解し、自分事として行動に示せる。
- (3)宿泊研修や行事、体験学習等、多様な体験や様々な他者との関わりを主体的に受け止め、肯定的、建設的に物事を捉え、体験や関りを価値あるものにしようとする。

(4) SDG s と教育・保育

【ねらい】

SDG s に関する知識実践を学び、教育・保育の現場で活かせる実践方法を、自分たちで調査・研究し、構築することができる。

【到達目標】

- ・SDG s の背景、17 の目標を理解している。
- ・観測データの大切と、そこから導かれる地球環境の現在を理解している。
- ・幼稚園や保育所をはじめ、様々に場所で展開されているSDG s の実践をその意義を含め理解している。
- ・研究の進め方を理解し、教育・保育に活かせる実践方法を獲得している。

4 教育の成果、評価

令和5年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケート(EduNav i)を実施。

- 問1 ・欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
- ・私語を慎んで授業を受けましたか。
 - ・授業の要点を配布プリント等にとっていましたか。
 - ・シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
 - ・予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
- 問2 ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
- ・授業内容のレベルは適切でしたか。
 - ・授業の進度(速さ)は適切でしたか。
 - ・この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
- 問3 ・教員の話し方は明瞭で聞き取りかったですか。
- ・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
 - ・授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。
 - ・教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
 - ・教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
 - ・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
- 問4 ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。
- 問5 ・授業の感想を自由に述べてください。

(1) 保育内容環境

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 7 問2 平均 4. 8 問3 平均 4. 8

問4 平均 4. 7

問5 自由記述

○今まで授業を通してたくさんの生き物や植物を学びました。まだまだ区別のつかないものがたくさんあるので何度も見直したり、実際に見て確かめるというような覚え方をしていこうと思いました。覚えたことを保育現場でも活かせるようにしていきたいです。

○環境の授業を通して、自然に興味を持つようになりました。家の周りにある草や虫をよく見たり、大学にある植物をよく観察するようになりました。セミの鳴き声や鳥の鳴き声について詳しくなったので、保育の現場に行ったとき、子どもに教えようと思いました。

○草花や樹木の特徴が実際に見てスケッチする中でわかりくした。セミや鳥の鳴き声はどの種類も変わらないと思っていたけど、授業を受けてそれぞれまったく異なる鳴き声なことがわかりました。

○実物が見れるため、名前と物の一致がしやすく覚えやすかったです！

○外に出たり、見たものを絵で描いたのすることで、記憶にのこりやすかったです。また、自ら体験することで子どもたちが生活するうえでの自然との関わり方、安全な環境の作り方を考えることができるようになりました。四季のある日本だからこそ、子どもたちにも四季を味わってもらえる環境構成をしたいと思います。

(2) 環境の指導法

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 4 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 5

問4 平均 4. 5

自由記述

○短大の野菜とてもみずみずしくおいしかったです。シシトウは種まで食べました。

○ササ舟やエコカルタなど自然に触れながら、また自然に関係したことをたくさん経験できました。子どもたちでもできることが多いと思ったので将来保育士になったときにこの経験を生かしていきたいです。バーベキューでは、野菜だけなので期待していなかったのですが、意外と美味しく野菜だけでも本当においしいんだと発見しました。

○バーベキューはシシトウを初めて食べたけどとてもおいしかった。ナスやピーマンも大きく食べ応えがあり美味しかった。

○今回の環境の指導法は昨年の保育内容環境と比べると実践的な内容が多く、楽し

んで行うことができた。笹舟は今まで作ったことがなく、初めて作ったがきれいに浮かべることができてよかった。また、紙飛行機や発泡スチールの飛行機もおみいっきり飛ばすことができて楽しかった。エコカルタは普通のカルタとは違い、環境に関するカルタで同じ内容も多かったが、個々の個性が出ていて面白かった。今回の授業で学んだことは保育士になってから十分に生かせることばかりだったので大変勉強になった。

(3) 子ども学ゼミナール

5. 0 (満点)

問1 平均 3. 9 問2 平均 4. 1 問3 平均 4. 3

問4 平均 4. 0

自由記述

- カルタづくりが鳩山町に貢献できると思うと熱が入りました。
- ネットで資料を探したり、ていねいに絵をかいていく中で、いろんな人がこのカルタで遊び、鳩山の良いところをあらためて発見できたと思った。

(4) 保育・教職論

5 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 保育内容 環境

短期的目標	○保育内容環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目。体験型で実物に触れる貴重な科目。本学の豊かな自然環境が活かせる科目。 ○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはど
-------	---

	うして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
長期的目標	○Think globally, act Locally “地球規模で考え、足元から行動せよ” “思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて” というように解釈されている。 SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、「水問題」「フードロス」「プラスチックによる海洋汚染」等環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切に守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーションを図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めたいものである。

（２）環境の指導法

短期的目標	○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。12回中出欠状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
-------	--

長期的目標	○「環境の指導法」。生活の意図している内容は一部引き継ぐ。 ○ 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。 ○幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。
-------	--

(3) 保育・教職論

短期的目標	○「保育」のもつ意味を理解する。 ○「幼保連携型認定こども園」とは ○保育者は主体的存在として子どもを受け止め、子どもの気持ちに寄り添った保育を実践する「養護」が重要 ○保育所保育における「教育」の意味として、子どもが環境との相互作用を通して、保育内容の5つの領域に基づき、生きる力の基礎となる「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一体的に育むこと。
長期的目標	○幼稚園・保育所・認定こども園（幼保連携型）の比較 ○保育者の要件・地位について教特法や児童福祉法から確立する。 ○保育士の専門性と役割について、PDCA、省察、エピソード記録 ○地方公務員法の服務について 欠格条項（16条） ○最近の幼児児童の傾向を把握し、その対処法を学ぶ。 ○今求められる理想の保育者像を探る。 ○保育所・幼稚園と家庭の役割について 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10を学ぶ。

6 その他

(1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識やあそびに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。令和元年度よりテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。



オリジナルテキスト

フィールド学習

(2) 公務員（保育士・幼稚園教諭）試験への指導とアドバイス

東京都を含め、県内市町村の公務員試験の募集要項にのっとり、合格論文の書き方、面接の受け方、適性検査、一般教養・専門試験への指導を徹底 個別面接指導

その結果OGを含め、平成30年度 5名、令和元年度 7名の合格者を出すことができた。令和元年度は1名 令和2年度 2名 令和3年度 一次合格は5名（最終 0）

令和4年度は過去最高の6名合格（現役）となった。特筆すべきはその中に2名の職業訓練生が含まれていることである。内訳は、川越市2名（10名募集）、ふじみ野市1名

（若干名募集）、熊谷市1名（若干名募集）、新座市1名（若干名募集）、県児童相談所

1名 計6名 最近の傾向として「補欠」として登録され、その後合格となるケースが出てきた。必ずしも住んでいる市町村の応募があるとは限らないので、東京都を含め積極的に挑戦し最後まで諦めないで努力することが希望が叶う基となります。

令和5年度は昨年以上の合格率 87.5%（昨年度 60%）となった。

東京豊島区（2名）、川越市（1 + 1名）、熊谷市（1名）、吉見町（1名）、狭山市（1名）

赤字は既卒

(3) 子ども学ゼミナール



野口ゼミ

人口一万三千人を下回った短大のある町「鳩山」

沈みがちな気分を少しでも盛り上げようと、鳩山のステキを探し、カルタにして町のあちこちに置いて訪れた方々に遊んでもらい、「鳩山」の町を再発見してもらおうとゼミとして取り組むこととした。

メンバー

チーフ	戸井田亜由美	サブ	矢野 彩那		
	新井 心		小峯 藍莉	根岸 虹鳥	
	萩原 杏美		青木 晴菜	五條 桂子	
	松崎 蘭美				





山緑祭で
披露



つ
ぽいの広場
ほっぽろぐ
科深まる
山村学園短期大学

(4) ナチュラル保育検定

R 6 ナチュラル保育検定 応用編

実物観察

キャンパスで咲いている花集め 5つ実物を
集め所定用紙に貼り付け、名前を特定する

※野菜の花はとらない



7 エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育内容環境、環境の指導法 子ども学ゼミ 保育・教職論）
- (2) 授業時配布プリント
- (3) 試験問題
- (4) 成績集計結果
- (5) ナチュラル保育検定
- (6) 子ども学ゼミナールⅠ